

生命科学・医学系研究実施のお知らせ

東京慈恵会医科大学倫理委員会の審査を受け、以下の研究を実施しております。

本研究に関する内容の詳細等、お知りになりたい方は下記【問い合わせ先】までご連絡ください。なお、試料・情報が本研究に用いられることについて、研究の対象となる方（もしくは代理人の方）にご了承いただけない場合は研究対象から除外いたしますので、下記【問い合わせ先】までお申し出ください。

【研究課題名】	骨髄異形成症候群と急性骨髄性白血病における Bcl-2 遺伝子の発現-Bcl-2 阻害薬の臨床適用へ向けて-		
1. 研究の目的と方法	骨髄異形成症候群 (MDS) は予後不良な疾患であり、新薬の開発が待たれている病気です。これまで悪性リンパ腫など他の血液疾患に確認されていた、Bcl-2 タンパクが MDS にも過剰に産生されていることが分かってきました。MDS から発症することもある急性骨髄性白血病 (AML) も同様に予後不良であり、治療内容には Bcl-2 を阻害する薬剤が使えるようになっていきます。現在 Bcl-2 阻害薬が治療として使える AML 患者さん、および今後 Bcl-2 阻害薬が使えるようになる可能性がある MDS の患者さんで、Bcl-2 阻害薬の治療効果が高い方がどのような方なのかを明らかにすることを目的としています。患者さんの血液中に認められる Bcl-2 mRNA レベルと、同時期に骨髄検査で得られた骨髄腫瘍中の Bcl-2 タンパク発現レベル、そして日常臨床で測定している WT-1 mRNA レベルの相関を調べます。その結果が、実際に Bcl-2 阻害薬にて治療を受けている患者さんの治療経過と合うものかどうかについても、実臨床ベースで確認して参ります。		
2. 研究期間	倫理委員会承認日～2027年3月31日まで、研究の実施を予定しています。		
3. 対象となる方等	附属病院にて、MDS および AML の患者さんで、2018年2月から2019年2月までに血液検査で WT-1 mRNA 定量検査を受けた方、および附属病院にて、AML の患者さんで、2021年4月から2024年7月までにベネトクラクスによる治療を受けている方。		
4. 研究に利用する試料・情報について	(1) 試料の種類	血液から抽出された RNA の余剰検体、および骨髄検査の際に採取した骨髄病理の余剰検体。	
	(2) 試料の取得の方法	通常検査の採血時の余った血液および骨髄検査時に保管させて頂いている骨髄残検体をいただきます。	
	(3) 情報の種類	年齢、性別、病勢の推移、検査結果（白血球数、血液分画、WT-1 mRNA 定量値）、骨髄病理検体中に認められる Bcl-2 タンパク発現量。	
	(4) 情報の取得の方法	診療録から診療時のデータを収集します。	
5. 研究の実施体制	あなたの試料・情報は、以下の研究者が研究のために利用します。 試料・情報は、(3)の管理責任者が責任をもって、保管・管理します。		
	(1) 当施設の 研究責任者 または研究 代表者	研究機関名	東京慈恵会医科大学 腫瘍・血液内科学講座
		氏名	仲野彩
(2) 当施設の長	東京慈恵会医科大学 学長 松藤千弥		

	(3) 当施設の 試料・情報の 管理責任者	(1) の研究責任者と同じ
	(4) 共同で研究 を実施する 施設とその 責任者	この研究では共同で研究を実施する機関はありません。
6. 試料・情報を他 機関とやり取り することについて	提供先の機関名：モルフォテクノロジー（予定）（北海道・札幌） 資料の提供開始予定日：2024年5月頃から 情報の利用開始日：2019年2月から	
【問い合わせ先】	東京慈恵会医科大学 腫瘍・血液内科 研究代表者： 仲野 彩(なかの・あや) 電話： 03-3433-1111 （内線：3250 ）	

※利用する情報等からは、お名前、住所、電話番号、カルテ番号など、個人を特定できる情報は削除いたします。
研究成果を学会や論文で発表する際も個人が特定できる情報は利用いたしません。